

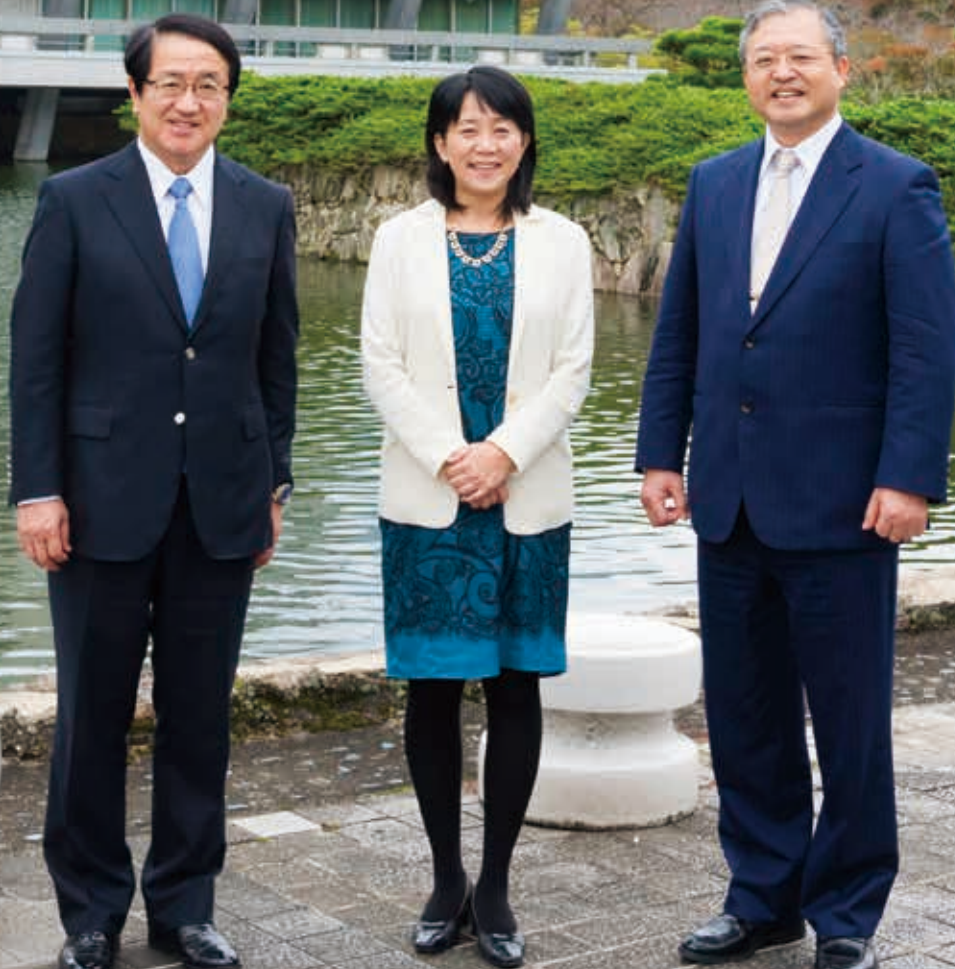
EYE LiNK

FREE PAPER

iPS細胞で、 網膜再生の臨床研究が始まる！

スペシャルトーク

理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
高橋政代 プロジェクトリーダーに聞く



金沢大学医薬保健学域
医学系眼科学教授

理化学研究所
多細胞システム形成研究センター

富山大学医学薬学研究部
眼科学講座教授

杉山 和久 × 高橋 政代 × 林 篤志

iPS細胞で、 網膜再生の臨床研究が始まる！

スペシャルトーク

理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
高橋政代 プロジェクトリーダーに聞く

山中伸弥教授の iPS 細胞の登場以来、再生医療への期待が高まっています。その臨床応用に向けた研究をけん引するのが理化学研究所の高橋政代プロジェクトリーダーです。先駆けとなる眼科領域ではどのような研究が進められているか。金沢大学の杉山和久教授、富山大学の林篤志教授と語り合っていました。

(平成 28 年 11 月 6 日、京都国際会議場にて)



iPS細胞から

加齢黄斑変性の新しい治療へ

林 ● 高橋先生は、理化学研究所で現在、網膜変性疾患の治療開発や医療システムの構築を進めておられます。

iPS細胞の医療への臨床応用に期待が集まるなか、まず眼科領域におけるiPS細胞の臨床応用がどこまで進んでいるのか教えていただけますか？

高橋 ● 眼科領域の臨床研究の1例目は、2014年9月に行った「網膜再生」です。患者さんのiPS細胞から網膜の一部である網膜色素上皮細胞

をつくって加齢黄斑変性に対する治療として移植しました。iPS細胞をヒトに応用した最初の1例目で、経過について世界的にも高い関心が寄せられています。手術が終わって丸2年が経過しましたが、順調な経過をたどっています。もともと結果については1年でジャッジし、3年で経過観察

することではじめたのですが、2年間で移植した細胞がきちんと生きて生着している結果が得られています。

杉山 ● 加齢黄斑変性（AMD）は治療法が少なく、症状の悪化を食い止めるために注射をしている現状があります。外来が多く、私の病院でも注射を

受ける患者さんが列をつくります。正直、私たちも患者さんも注射から解放されたいのが本音だと思います。

高橋 ● 実は1例目の患者さんは、加齢黄斑変性の眼球注射を13回受けられていました。それでも視力が0.3から0.1に下がって、止めるとさらに視力が落ちるので止められない状況でした。今回の移植手術で注射もせず、

免疫抑制剤もなくて、自分の細胞を使っていきますので副作用もなく落ち着いています。「明るくなった」と、とても喜んでおられます。

林 ● 素晴らしい。患者さんの経過については、皆さん関心があるところだと思います。最初の患者さんは現在まで大きな問題もなく順調にきていると、さらに2例目、3例目への期待が膨ら

みますが、1例目はやはり安全性というところがメインになるのですか？

高橋 ● そうです。薬の開発と同じで、まずは安全性を確認します。1年目でジャッジしようと決めたのも、だいたい1年間で起こることは想定できますので、それをクリアすればほぼ大丈夫だと。念のために3年は経過観察をしますが、安全性についてはまだ1例だけです。安全に担保できたと考えて差し支えないと思います。

iPS細胞の新たなステップ 自家移植と他家移植

林 ● 次のステップは、どんな感じで進んでいくのでしょうか？

高橋 ● 自分の細胞からiPS細胞をつくらせて移植する自家移植の2例目、3例目と、iPS細胞ストックから、拒絶反応なしにたくさんの人に応用できる特殊なiPS細胞を使って移植する、他家移植の臨床研究を進めていきます。

杉山 ● 他家移植は、神戸市立医療センター中央市民病院、大阪大学、京都大学iPS細胞研究所との共同研究とお聞きしています。

高橋 ● そうです。神戸市立医療センター中央市民病院から今回、患者さんを出していただきます。他家移植による「滲出型加齢黄斑変性」の治療法開発です。山中教授は、iPSストックから拒絶反応なしにたくさんの人に使える特殊なiPS細胞をつくって下さっていて、それを他家移植します。重症患者が対象のシートと、比較的症状が軽い人には大きく傷をあけるより注入する方がいいので、懸濁液を使う場合と両方の臨床研究です。自家移植、他家移植の懸濁液とシートの



高橋 政代 Masayo Takahashi

理化学研究所
多細胞システム形成研究センター



林 篤志 Atsushi Hayashi

富山大学医学薬学研究部眼科学講座教授

三つを、全部一挙に行います。

林 ●いつごろから始められるのですか？

高橋 ●他家移植の懸濁液の方はすでに申請して、大阪大学の特定認定委員会という再生医療用の認定を通っています。次は厚生労働省に確認していただいて承認されれば、年明けには承認されると思います。

杉山 ●自家移植は自分の細胞を移植するのに対し、他家移植は他の人の細胞を備蓄したものを移植するとお聞きしています。拒絶反応などの心配はないのでしょうか？

高橋 ●通常は拒絶反応は起こり

ます。ただ山中教授は、白血球の型を合わせれば他家移植でも拒絶反応は少ないだろう、と。白血球の特殊な型、HLA (Human Leukocyte Antigen) といいますが、これが日本人にマッチしやすい。HLAのすべての型に対応するのは大変ですが、6座マッチする人が11%、3座マッチが17%といわれています。日本人に多いHLA型ならば、治療用の細胞・組織を作って移植すると多くの患者さんで拒絶反応を回避できるのではないかと考えています。移植する網膜色素上皮細胞自体が型がマッチしていれば免疫を抑

制します。HLAをマッチさせると、網膜色素上皮細胞に限っては免疫抑制剤は要らないと思われれます。

iPS細胞から期待される 再生医療へ

杉山 ●白血球の型をマッチさせることが重要で、そこでちょっとハードルがある？

高橋 ●そうです。1例目は、一人か二人しか臨床研究の対象にできなかったもので、希望者はたくさんおられてもお断りせざるを得ない状況でした。今回は、良いと思う人の10%ぐらい、合計20人ぐらいの対象にしていますので100〜200人ぐらいの対象者が必要になります。是非、両先生の大学でも紹介していただけるとありがたいと思っています。

林 ●来られた患者さんのHLA検査をして、白血球の型があつた人を選ん

で手術をする。そういう人には、免疫抑制剤を使わなくて済むわけですね？

高橋 ●そうです。だから今回は、他家移植で免疫抑制剤を使わないということも凄いチャレンジです。おそらく日



本でも初めてのケースで、山中教授の理論が正しいかどうかを立証することにもなるので、教授ご自身も期待されています。

林 ● iPS細胞の医療への応用は患者さん大いに期待しています。今回は加齢黄斑変性に対しての臨床研究ですが今後、枠を広げて治療できるまでにはどれぐらいかかりますか？

高橋 ● 人によって見方が違っていて、私たち臨床家は安全性が担保されて機能できれば基本的にはOKですが、遺伝子を徹底的に調べないといけないとか、いろんな分野から意見が挙がっています。しかし今回無事に5例

の臨床研究をクリアできれば、後は先進医療でやれると思います。細胞は一種類用意すれば、1000人分ぐらいすぐにできます。先進医療、臨床研究として各病院でできるようにになれば広がっていくと思います。

杉山 ● 日本の各施設でやれるようになれば一気に加速するんじゃないですか？

高橋 ● そう思います。ある意味それが日本の強みで治験と臨床研究という二つのトラックがありますから、5年以内には実用化のめどがつくのではないかと期待しています。

網膜以外への

iPS細胞の可能性

林 ● 今回は網膜色素上皮を使った臨床研究が主体ですが、網膜以外の分野でiPSの可能性についてはいかがでしょうか？

高橋 ● 網膜色素上皮は特殊だと思います。茶色い細胞で不純物が混ざっていない状態が確保できますし、何より腫瘍がありません。網膜色素上皮の腫瘍の報告は過去に2例ぐらいありますが、転移がない目の中だけの悪性腫瘍です。そして免疫を抑制する特殊な細胞です。ほかの細胞が同じようにうまく行くかどうかはわかりません。

杉山 ● たとえば角膜なんかはどうでしょう？

高橋 ● 十分可能性があると思います。私たちは網膜色素上皮細胞と視細胞をやるかと思っていますが、他大学の研究で角膜も4〜5年の範疇で再生できるのではないかと考えています。眼科領域は、腫瘍ができにくい、細胞の数がなくて済むことも治療や再生の効果を見極めるうえで重要な要素です。眼科領域以外では、パーキンソン病はかなり安全性が確保されていますし、胎児のドーパミン細胞移植

で大きな成果を挙げています。

杉山 ● 新聞などによると、脊髄も取りざたされていますね？

高橋 ● 脊髄は、安全性確保の面で、もう一段階ステップアップが必要です。ただ少ない細胞で治療開発が可能なところは眼科と共通しています。

林 ● お話を伺って、iPS細胞を使った再生医療で先生ご自身の臨床医としての経験が、臨床研究やこれからのルールづくりにとっても大きな要素になっていると感じます。若い医師やこれから眼科医をめざす若い人たちに對してどんなことを期待されますか？

高橋 ● 日本には、再生医療を臨床研究として組み込める仕組みがあります。それによって私たち医師が、再生医療を研究しています。これは世界に類を見ません。海外は、企業が主導で治験や研究を行っています。ですから若い先生方には、再生医療の臨床と研究を絶対にやってほしい。眼科の領域は、日本で最初に再生医療が始まります。ものすごく重要でやりがいのある領域です。日本でイノベーションを起こして、海外に流出した医療費を取り返すチャンスです。良い診療とレベルの高い研究をするためにもぜひ、若い人たちは研究に興味を持ってください。



杉山 和久 Kazuhisa Sugiyama

金沢大学医薬保健学域医学系眼科学教授



診療の“コツ”と“テクニック”

金沢大学附属病院における硝子体注射手技

抗 VEGF薬の硝子体注射は需要が高まり、今やごく日常的な治療となりました。注射の合併症として①眼内炎、②網膜剥離、③水晶体損傷、④左右眼の取り違えが挙げられますが、これらを防ぐ為の工夫について述べます。まず①ですが、眼周囲皮膚は10%ポピドンヨード液で通常どおり消毒し(穴あきドレープは不要)、睫毛根をカバーする形状の開瞼器(当院ではディスポのイーゼースペック®)を装着後、20ccの6倍希釈PAヨード®で眼表面や結膜嚢を洗浄し、硝子体注射直後はそのPAヨード®を更に点眼して、オフロキサシン眼軟膏点入を行っています。当日のみ洗顔洗髪不可とし、注射後3日間モキシフロキサシン点眼を行います。次に②と③ですが、長さ12mmの短い30G針を角膜輪部から4mmの部位に、強膜面に垂直に、約8mmの深さ刺入しています。顕微鏡を見たままだと刺入の深さや針の角度が分かりにくいので、強膜貫通までは手術用顕微鏡を見ながら行い、貫通後は肉眼で見ながら注入すると良いでしょう。初心者はずまず水晶体損傷のリスクがない眼内レンズの症例で慣れることをお勧めします。④については、注射直前の診察時に水性か油性ペンで眼瞼に小さなマーキングをするのが簡便で確実な方法です。



金沢大学眼科
藤村 茂人
ふじむら・しげと



結核検査のやり方

ツ反とクオンティフェロンとT-Spot

ぶ どう膜炎の診察では、感染性ぶどう膜炎か、非感染性ぶどう膜炎かを判断することは非常に重要です。特に、結核性ぶどう膜炎は様々な所見を呈することから、必ず鑑別をしておく必要があります。結核の検査として、ツベルクリン反応(ツ反)が古くから用いられていますが、近年、結核菌特異抗原による刺激によってリンパ球から産生されるインターフェロンγを測定する検査(インターフェロンガンマ放出試験)によって、結核に対する獲得免疫の有無と活性化の程度を調べることができるようになり、広く用いられています。現在、クオンティフェロンTB Gold test®(QFT)、Tスポット・TB®(T-Spot)が保険適応となっており、QFTの感度は92.6%、特異度は98.8%、T-Spotの感度は97.5%、特異度は99.1%です。しかし、結核性ぶどう膜炎症例のツ反、T-Spot、QFTの結果を調査した研究では、T-SpotやQFTが陰性、ツ反陽性の症例も少なくなく、T-SpotやQFTはツ反とともに用いられることが推奨される、とされています。サルコイドーシスの診断基準からツ反はなくなってしまいましたが、ぶどう膜炎の患者さんにはツ反を行なうこと(少なくともステロイド内服を始める前に…)をお勧めします。

ツベルクリン反応の自己判定について

ツベルクリン反応は、結核菌感染の有無ばかりでなく、体の免疫状態を知る上で重要な検査です。現在のあなたの目の病状について大切な情報を得るためのものですので、忘れずに判定してください。下の説明に従って測定した結果をこの紙に記入し、次回受診時に担当の医師に渡してください。判定は48時間後に行ってください。

月 日 時刻 に、測定をお願いします。

- 測定したか
1. 赤くなっている部分の縦と横の長さを測ってください。

たて mm よこ mm
2. 赤くなっている部分に、さらに赤いところがありますか。
ある場合は、その縦と横の長さを測ってください。

たて mm よこ mm
3. 赤くなっている部分の中に硬くなっているところがありますか。
ある場合は、その縦と横の長さを測ってください。

たて mm よこ mm
4. 水ぶくれになっている部分がありますか。 ある・ない
5. その他、気づいたことがあれば書いてください。
6. 写真が撮れる方は、物差しを赤い部分の横に置いて撮影してください。

図 自己判定シート

ツ反の判定は48時間後のため、患者さんにまた受診してもらうのは大変だ、と思われる先生は多いと思います。当院では自己判定シートをお渡しして、患者さん自身で結果を測定してもらいます。発赤した部分にものさしを置いてスマホで写真を撮ってもらい、次の診察時に写真を確認すれば、概ね問題ありません。

地域医療最前線

北陸地区には大学病院と共に地域眼科医療の担い手病院がある。今回は地域の眼科医療において最前線で活躍されている医療施設の眼科医師に現在の診療状況についてお聞きした。

恵寿総合病院

〒926-8605 石川県七尾市富岡町94番地
TEL.0767-52-3211

外来スタッフの紹介

医師1名、ORT現在3名(平成29年度より1名増員予定)、看護師3名、看護助手1名、医療秘書1.5名です。その他金沢大学から金曜日午後外来応援医師の派遣があります。そして杉山能子先生の斜視外来が月2回あります。

診療実績について

平成27年度の外来延べ患者数は14,140人でした。また手術件数は約750件、内訳は白内障手術約650件、硝子体手術約50件、眼瞼疾患手術約20件、緑内障手術3件などでした。

アピールポイント

当院は能登半島の付け根に位置します。地元七尾市や中能登地区ばかりでなく奥能登(能登北部医療圏)からの患者様の来院が多いのが特徴です。白内障手術以外に硝子体、眼瞼そしてこれからは緑内障手術に注力していると考えています。最近、高齢化の影響により局麻手術が困難な症例や難症例が増えているようです。そして眼感染症や全身疾患、ご家族の都合により手術予定日近くの手術のキャンセルの多いことが悩みです。



後列左から 視能訓練士 北野香緒里 看護師 田中登紀子
視能訓練士 大瀬由紀乃 視能訓練士 木山琢達
看護秘書 藤岡敬子 看護師 蓑川仁美
前列左から 医療秘書 村田珠実 馬渡嘉郎 先生
撮影時不在 看護師 松本友子



眼科部長
馬渡 嘉郎
まわたり・よしろう

[専門]
眼科一般
[認定資格]
日本眼科学会専門医



高岡ふしき病院

〒933-0115 富山県高岡市伏木古府元町8-5
TEL.0766-44-1181

外来スタッフの紹介

現在視能訓練士が不在のため、外来スタッフは医師1名、看護師2名(うち1名は視能訓練士の仕事です。)、医療事務1名です。その他、富山大学から第1、3、4、5火曜日に手術応援医師を派遣していただいています。

診療実績について

平成27年度の外来患者数は延べ5,367人でした。手術件数は249件のうち白内障が158件、抗VEGF抗体硝子体内注射が82件となっています。

アピールポイント

当院は地域密着型の病院で、また健診を大規模にやっており眼科では緑内障疑いにチェックの入る方が多いため外来患者の緑内障占有率は高いと思います。糖尿病センターがあるのも特色の一つでそこからの紹介患者も沢山来られます。白内障手術においてトリック眼内レンズの使用率が高いのも特徴です。「自分が受けたい医療を患者様にも行う」ということをモットーに日々頑張っています。



看護師 和泉恵子 看護師 長谷川弥生
図師眞弓 先生 医事課 角田晴香



眼科部長
圖師 眞弓
ずし・まゆみ

[専門]
眼科一般
[認定資格]
日本眼科学会専門医



第5回

眼科サマーキャンプ2016 開催

2016年8月6日(土)～7日(日)に第5回眼科サマーキャンプ2016が千葉県木更津市にて下記日程で開催されました。

1日目

“触れる”(体験)

最先端の医療機器を体験

白内障手術体験コーナー／検査・治療機器体験コーナー
3D手術実見コーナー／視覚障害体験コーナー

語らう

全国で活躍する先輩医師との懇親・相談会

2日目

“知る”(計9講演)

主な講演内容

眼の根源力について

仲泊 聡・大鹿 哲郎

眼科力の現況について

石橋 達朗・山田 昌和・西田 幸二

眼科医の生活力について

近藤 峰生・泉 玲子・前田 利根・外園 千恵

眼科の未来力について

高橋 政代



～サマーキャンプに参加して～



富山大学研修医2年目
高田 雄太

私がこの学会に参加しようと思った理由は、過去の参加者の方々の評判がとても良かったからです。最新の眼科の検査機器に実際に触れてみたい、視覚障害者の方々の視野を体験して、みんなでディスカッションしたり、また白内障手術の体験をさせていただいたり、とても充実した内容でした。そのほかにも、著名な先生方からのiPS細胞を用いた最先端の研究についての講義など、興味深いお話をたくさん聞くことができました。私はすでに将来眼科医になることを決めて参加した学会でしたが、より眼科の魅力を実感でき、自身の進路選択は間違っていないことを確信することができました。来年は是非とも後輩にお勧めしたいと思います。



富山大学医学部医学科6年生
沼田 彩花

8月6日・7日と千葉県木更津市で行われた第5回眼科サマーキャンプに参加させて頂きました。150名もの眼科に興味のある学生・研修医に加え、指導して下さる先生方も大勢いらっしゃり、とても賑やかで楽しく、充実した2日間となりました。このサマーキャンプに集まった日本全国からの参加者に刺激を受け、より眼科への興味が深まったように思います。今後の医師としての人生にとってとてもいい経験になり、このような素晴らしい催しに参加できたことを嬉しく思います。



眼の医療のために、できること。

三和器械は眼科医療の専門商社として
最新の医療機器、医療用医薬品及び
専門的な技術メンテナンスを各医療機関に提供しています。



眼科医療機器 眼科用剤 総合商社

三和器械株式会社

〒920-0935 石川県金沢市石引4丁目4番6号 TEL:076-222-1655(代) FAX:076-222-1668 E-mail:post@sanwakikai.co.jp



株式会社 メディカルアート

私たちはいつも医療のそばにいます

- ・ホームページ制作
- ・スマホ版ホームページ制作
- ・記念誌／パンフレット
- ・情報誌の発行
- ・広報誌／診療案内
- ・各種映像の制作及び編集

制作に関わる取材及び撮影



本 社

〒921-8027 金沢市神田2-1-61
TEL: 076-242-6663 FAX: 076-242-6671
E-mail: info@medicalart.jp

大学事業部

金沢店（金沢大学病院内）
〒920-0934 金沢市宝町13番1号
TEL: 076-234-6178 FAX: 076-234-6179
E-mail: nj-magk@io.ocn.ne.jp

信州店（信州大学病院内）
〒390-0802 松本市旭3丁目1番1号
TEL: 0263-37-5280 FAX: 0263-37-5278
E-mail: nj-shin@crocus.ocn.ne.jp



S H O S O

DISPOSABLE
MICROSURGERY KNIFE

日本力。

私たちが生産の拠点を置く岐阜県関市は、刀剣の産地として800年の歴史があります。「折れず曲がらずよく切れる」という日本刀の神髄は、日本が誇る鍛造の技術によって、繊細かつ強靱な切れ味となって KAI 鍛造眼科メスにもしっかりと受け継がれています。

「匠創」は技術力と創造力を表す漢字を使った新ブランド名で、赤い落款をイメージしたロゴには KAI のクオリティと誇りが込められています。



スリットナイフ

販売名：マイクロサージェリーナイフ
医療機器認証番号：219ABBZX00200000

仕様は変更することがあります

製造販売元

カイ インダストリーズ株式会社

国内営業部 医療器

〒501-3992 岐阜県関市小屋名1110
Phone (0575) 28-6600 Fax (0575) 28-6611
<http://www.kai-group.com/global>

MANI®

The Ultimate in Sharpness

究極の切味



〒321-3231 栃木県宇都宮市清原工業団地 8-3
お問い合わせ先【眼科営業課】TEL 028-667-9911 FAX 028-667-6177
8-3 KIYOHARA INDUSTRIAL PARK, UTSUNOMIYA, TOCHIGI, 321-3231, JAPAN
Phone: +81286677565 Fax: +81286676177

MANI®
MANI, INC. マニー株式会社

持続性 緑内障・高眼圧症治療剤

[薬価基準収載]

チモロールXE点眼液0.25%「TS」 チモロールXE点眼液0.5%「TS」

チモロールマレイン酸塩持続性点眼液

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照下さい。



～信頼と安全の思いを込めて～

テイカ製薬株式会社

〒930-0982 富山県富山市荒川1-3-27

<http://www.teika.co.jp>

資料請求先 テイカ製薬株式会社 医薬営業部
2016.12

最新のテクノロジーと熟練のクラフトマンシップがドクターの要求にお応えします。

株式会社 エムイーテクニカ

本社 03-5395-4588 大阪 06-6479-1707
札幌 011-792-6522 福岡 092-432-3740

<http://www.emetechnica.co.jp/>



抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤

レミケード®点滴静注用100

REMICADE® for I.V. Infusion 100 (インフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤)

生物由来製品 製薬 処方箋医薬品 (注意・医師等の処方箋により使用すること)

[薬価基準収載]

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む
使用上の注意等については、添付文書
をご参照ください。



製造販売元(資料請求先)

田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10

2015年11月作成

患者さんの笑顔と健康を願って・・・

新薬開発の先に見えるもの・・・

私たちは考えています、
患者さんの笑顔と喜びを。



「あなたに笑顔」科研製薬の願いです。

科研製薬株式会社

東京都文京区本駒込二丁目28番8号

<http://www.kaken.co.jp>



新薬で人々のいのちと
健康に貢献します。

ノバルティス ファーマ株式会社

<http://www.novartis.co.jp/>



眼科手術補助剤、硝子体内注用副腎皮質ホルモン剤 <トリアムシノロンアセトニド>製剤
処方箋医薬品 (注意 — 医師等の処方箋により使用すること)

マキューイド® 硝子体内注用40mg

MaQuaid® intravitreal injection 40mg

[薬価基準収載]

製造販売元
(輸入品)



わかもと製薬株式会社
東京都中央区日本橋本町二丁目2番2号

本剤の「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用
上の注意」等の詳細につきましては製品添付文書をご
参照下さい。

※資料請求先 わかもと製薬株式会社 医薬学術部

2016.12.K

さわやか5感



さわやか5感

世界の人々の目の健康に奉仕するという使命感のもと、私たち千寿製薬は眼科薬のパイオニアとして常に時代に
にさがけて、独創の道を歩んでまいりました。そして将来に向けて、さらに独創的な新製品を開発したいとの願
いから、5感の分野へも挑戦を始めています。
人と医薬品の無限の可能性に向かって歩み続ける千寿製薬に、今後ともご期待ください。

千寿製薬株式会社 大阪市中央区平野町二丁目5番8号

02768

2016年11月作成

講演会スケジュール(2017年2月～)

	日 程	会 名	場 所	時 間	演 者
石川	2017年 4月16日(日)	第339回金沢眼科集談会	金沢大学附属病院宝ホール	10:00～	佐藤 美保 先生 (浜松医科大学)
	2017年 6月16日(金) ・17日(土)	第73回日本弱視斜視学会・ 第42回日本小児眼科学会合同学会	石川県立音楽堂		会長：第73回日本弱視斜視学会 杉山 能子 先生 (金沢大学) 会長：第42回日本小児眼科学会 外園 千恵 先生 (京都府立医科大学)
	2017年 9月24日(日)	第11回北陸オフサルミックフォーラム	ホテル金沢	13:00～15:00	未定
	2017年 11月19日(日)	第37回金沢医科大学眼科研究会	金沢市文化ホール 大集会室	13:00～	森 和彦 先生 (京都府立医科大学)
	2017年 12月17日(日)	第340回金沢眼科集談会	金沢ニューグランドホテル	13:00～	松本 長太 先生 (近畿大学) 岩瀬 愛子 先生 (たじみ岩瀬眼科)

	日 程	会 名	場 所	時 間	演 者
富山	2017年 2月18日(土)	第105回富山大学眼科臨床カンファレンス	富山国際会議場(会議室203・204)	18:30～20:30	古泉 英貴 先生 (東京女子医科大学) 山岸 直矢 先生 (山岸眼科医院)
	2017年 3月25日(土)	第22回北陸眼疾患シンポジウム	ホテルグランテラス富山	18:00～20:30	佐々木 香る 先生 (JCHO星ヶ丘医療センター) 飯田 知弘 先生 (東京女子医科大学) 中尾 雄三 先生 (近畿大学)
	2017年 4月15日(土)	第36回とやま眼科学術講演会	ホテルグランテラス富山	18:00～20:30	久保田 敏昭 先生 (大分大学) 中澤 満 先生 (弘前大学)
	2017年 5月13日(土)	第37回とやま眼科学術講演会	ホテルグランテラス富山	18:00～20:30	山上 聡 先生 (日大板橋病院) 寺崎 浩子 先生 (名古屋大学)
	2017年 5月21日(日)	第76回富山眼科集談会	富山国際会議場(会議室203・204)	13:00～16:30	下村 嘉一 先生 (近畿大学)
	2017年 7月8日(土)	第38回とやま眼科学術講演会	ANAクラウンプラザホテル富山	18:30～20:30	園田 康平 先生 (九州大学) 未定
	2017年 9月9日(土)	第106回富山大学眼科臨床カンファレンス	富山国際会議場(会議室203・204)	18:30～20:30	若倉 雅登 先生 (井上眼科病院) 高橋 靖弘 先生 (愛知医科大学)
	2017年 10月29日(日)	第77回富山眼科集談会	富山国際会議場(会議室203・204)	13:00～16:30	前田 直之 先生 (大阪大学)

	日 程	会 名	場 所	時 間	演 者
福井	2017年 5月14日(日)	福井県眼科医会学術講演会	福井フェニックスホテル	15:00～17:00	山城 健児 先生 (大津赤十字病院) 古田 実 先生 (福島県立医科大学)
	2017年 6月3日(土)	福井県眼科医会学術講演会	福井フェニックスホテル	18:00～20:00	島崎 潤 先生 (東京歯科大学)
	2017年 9月2日(土)	福井県眼科集談会	福井県商工会議所	18:00～21:00	未定

医業経営をトータルに強化 クリニック経営支援



株式会社メディカ・コンサルティング

〒920-0003 石川県金沢市疋田1丁目33番地
(晶経営グループ内)

TEL:076-252-0162

中期経営
計画策定

収益性分析

マーケティング
コンサルティング

人材教育
コンサルティング

ホームページ&SNSから医業経営に関する
情報やセミナー情報を随時配信しています。

